

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 9 月 11 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370524

研究課題名(和文) 公用語の地域差に関する社会言語学的総合研究

研究課題名(英文) Sociolinguistic general research on the regional differences of public terms

研究代表者

井上 史雄 (Inoue, Fumio)

東京外国語大学・その他部局等・名誉教授

研究者番号：40011332

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、「公用語の地域差に関する社会言語学的総合研究」という新テーマに関して、徹底的にデータを集め、分析した。従来見落とされていた斬新なテーマとして、公共場面での意識的使用、談話としての方言差および気づかない方言や方言景観を取り上げた。地方議会会議録のデータベースを活用し、新しい研究技法を採用した。さらにインターネット上から情報を得て、世界の諸言語・方言の国際的相互普及も探求した。方言景観のデータを収集して分析した。以上のデータを分析し統合することにより、日本語および世界諸言語の地理的変異と文体的変異の関連を把握しえた。

研究成果の概要(英文)：In this research, data was thoroughly collected and analyzed for the new theme "sociolinguistic general research on the regional differences of public terms." As a novel theme which have been overlooked in conventional dialectology, intentional dialect use in public scenes, dialectal differences in discourse, unnoticed dialect differences and dialect landscape were taken up. The database of the records of local assemblies was utilized and a new research technique was adopted. Furthermore, information was acquired from the Internet. The search was performed for international mutual spread of the many languages and dialects in the world. Data of the dialect landscape have been collected and analyzed. By analyzing and unifying the above data, the relations between the geographic varieties of Japanese and world languages and style variation have been grasped.

研究分野：社会言語学

キーワード：方言 公用語 地方議会会議録 インターネット情報 言語景観

1. 研究開始当初の背景

日本語方言学の主な関心は、古来の日常の方言使用だった。21世紀に入り、高年層も方言を保持することが少なくなり、従来型の方言調査では、地域差がカバーできない。本研究では、新鮮なテーマとして、気づかない方言や、談話としての方言差、および公共場面での方言使用を取り上げた。また新しい研究技法を採用した。公共的場面として地方議会会議録のデータベースを活用し、さらにインターネット上から情報を得た。以上のデータを分析することにより、言語変化の発生と伝播の過程が分かった。

2. 研究の目的

本研究では、「公共用語の地域差に関する社会言語学的総合研究」という新テーマに関して、徹底的にデータを集め、分析した。従来見落とされていた斬新なテーマとして、公共場面での意識的使用、談話としての方言差および気づかない方言や方言景観を取り上げた。地方議会会議録のデータベースを活用し、新しい研究技法を採用した。さらにインターネット上から情報を得て、世界の諸言語・方言の国際的相互普及も探求した。方言景観のデータを収集して分析した。以上のデータを分析し統合することにより、日本語および世界諸言語の地理的変異と文体的変異の関連を把握しえた。

3. 研究の方法

以下研究分野ごとに分けて述べる。

1. 地方議会会議録が公開されつつあるので、研究分担者木村泰知が構築中のデータベースを拡大し、一般人にも利用しやすくした。このデータベースを活用して、多様な言語現象の地域差を分析した。ことに高丸の Ngram による文字列検索により、地方差が明瞭に取り出された。木村、高丸が担当した。

2. 人々が意識していない「気づかない

方言」を研究対象にし、文献およびインターネット調査により、地域差を確認した。これまでの研究成果を踏まえた上で、アンケートやインターネット調査を通じて新しい項目を選んだ。方言差を知るためのデータも、今はインターネット上から得られる。ことに Google 検索で、政府や自治体のような堅苦しいサイト site:lg.jp と、ブログ利用者のように若者の俗語のとびかうサイト site:2ch.net を比較して、公共用語の文体差・場面差を確認できた。

3. 方言の公共場面における意識的使用・方言景観については、方言景観における公共場面での意識的使用も目立つ。現場で大量データを集積し、新たな方言差を分析した。

4. 副産物として、半世紀前に記録された奄美沖永良部方言の手書きの語彙集をワープロソフトに入力して、インターネットで公開した。

<http://innowayf.net/>

4. 研究成果

以下研究分野ごとに分けて述べる。

1. すでに指摘されていた公的表現の地方差として、沖縄の「去った 日」、岩手の「特にも」、大阪市と堺市の「なくなす」以外に、「シャベルとスコップ」「カッターとワイシャツ」などの東西差が確認できた。「よろしかったでしょうか」というあいさつなどは議会の発言でも地域差は見える。

文法的な表現の近代に生まれた地域差として、「～である」「～ておく」「～ている」「～かける」などの使い分けも分かる。敬語の実際の使用についても「西高東低」の傾向が出る。つまりポライトネスの観点から、議会の言語行動を分析できる。さらに談話のパターンの地域差を実証できた。井上および高丸が担当した。

2. 教育用語や食品名などで各地の言い

方の地域差が効率よく調査できた。

視野を世界に広げ、日本国内の外国語使用の地域差、方言の中の外来語、日本国外における日本語方言の使用なども調査した。後者は外行語として確立した日本語方言と言える。外行語全体としては、データベースを作って、分析し、東アジア諸国および欧米で多く使われることを確認できた。言語外要因としては地理的近接効果および経済的交流の大きさが働くことが分かり、いくつかの論文として発表した。井上および岸江が主に担当した。

3. 東日本大震災の被災地の方言使用に着目し、「方言エール」というジャンルのデータが整理された。以前からあった方言みやげ以外に、方言ネーミングが施設、商店、街路、行事、商品などに見られた。Google street view で、現地に行かなくても、方言看板などを集成できた。井上、田中、Long および山下が主に担当した。エッセンスが『魅せる方言』と題する単行本としても公刊され、専門誌でも紹介された。

景観方言学の成果は国際的方言学インターネットジャーナルに載せることができた。

この派生としての方言景観の前史として、戦前方言絵はがきについては「桜井隆コレクション」をスキャンして画像を公開し、かつ文字をワープロ入力して、コーパスとしてインターネットで公開した。

4. 幸いに基盤研究 B として継続研究が許された。最終的には以上の研究テーマの成果を統合する過程にある。現時点で観察される一見多様な現象にも、統一的原理が貫徹していることを明らかにし、外国語にも適用可能な手法であることを海外に発信する予定である。逐次最新の成果を以下で公開する。

<http://innowayf.net/>

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 29 件)

井上史雄 2013.3.21 日本語の国際進出 グーグルインサイトにみる外行語のトレンド 明海大学外国語学部論集 25 pp.1-15

井上史雄 2013.3.31 ハワイと世界の外行語 質問紙とグーグルにみる日本語使用 明海大学応用言語学研究 15 pp.93-103

井上史雄 2013.4.2 Contemporary History of Okazaki Honorifics - Democratization and te-itadaku -
<http://www.ninjal.ac.jp/socioling/nwavap02/Inoue-NWAVAP2-2013.pdf> pp.1-9
"Working Papers from NWAV Asia-Pacific 2

井上史雄 2013.12. "Dialect Lexicography and the Standard Language— Words for Snow and Suburban Tokyo Dialect —" Dialectologia special issue IV pp.93-121
<http://www.publicacions.ub.edu/revistes/dialectologiaSP2013/>

Fumio INOUE & Akemi YAMASHITA 2013.12.9 "Change in the use of beautifying "o" and late adoption A historical interpretation of data one decade apart " Alena Barysevich, Alexandra D'arcy and Davi Heap (eds) Proceedings of Methods XIV, Bamberg Studies in English Linguistics pp.315-326

井上史雄 2013.12.10 外行語と外来語(日本語の攻防) 日本語学 32 巻 12月号 pp.70-7932 (15)

井上史雄 2014.2.26 ポライ
トネスの歴史地理学 Google Ngram
Viewer と Google trends による言語史
明海日本語 19 pp.1-10

井上史雄 2013.12 災害時の言語景
観の問題点 避難所表示の多様性 命綱
としての日本語 緊急時コミュニケーション
の社会言語学的総合研究 pp.28-41

Fumio INOUE 2014.11. Works in
Dialectology by Reverend Willem A.
Grootaers
http://innowayf.net/download/Works_in_
Dialectology_by_Reverend_Grootaers.pdf
#search='willem+grootaers'

井上史雄 2014.12.10 昭和の
方言 鶴岡と郊外の言語変化 日本語
学 33-15 12月号 pp.2-10

井上史雄 2014.2.26 ポライ
トネスの歴史地理学 Google Ngram
Viewer と Google trends による言語史
明海日本語 19 pp.1-10

井上史雄 2015年2月 Web 敬語の
成人後採用 岡崎敬語調査の「川の子」
変化 『国語研プロジェクトレビュー』
5巻3号 pp.98-107

井上史雄 2016.3.15 敬語表
現の成人後採用 岡崎における半世紀の変
化 国立国語研究所 (NINJAL)

井上史雄 2015.3.26 "外行
語の世界分布地図 Google Trends データ
の因子分析 " 明海日本語 20 pp.1-10

井上史雄 2016.3.31 日本語
2人称代名詞の地方議会会議録における出
現 明海日本語 Meikai Nihongo 21
pp.1-16

井上史雄 2015.5 The economic
status of Chinese and Japanese: an
international survey, internet searches
and linguistic landscape 中国語言戦略
(2015.1) 2-1 pp.10-22, appendix

井上史雄 2015.5.31 言語景
観の表層と深層 政治と経済 日本学
40 The Ilbon-Hak pp.85-107

井上史雄 2015.9.20 "外行
語世界分布の国別因子分析 Google
Trends による傾向 " 計量国語学
30-2 pp.73-97

井上史雄 2015.9.30 「お父

さん」の記憶時間 グロットグラムによる
地域差と年齢差 社会言語科学
18-1 pp.128-146

井上史雄 2015.11.30 内蒙古
文字景觀の社会言語学 文字の社会類型論
社会言語学 XV pp. 91-111,

井上史雄 2016.3.20 データの視
覚化(4) Excel 散布図のグラフ・地図
への応用 計量国語学 30-4
216-233

井上史雄 2016.3.31 日本語
2人称代名詞の地方議会会議録における出
現 明海日本語 21 pp.1-16

Fumio INOUE 2016.8 A Century of
Language Change in Progress --- New
Dialect in Tsuruoka--- Dialectologia
17 web 公開

井上史雄 2016.9 計量方言学の研
究動向 内外の半世紀 方言の研究 2
pp.39-50

井上史雄 2016.12.25 "オリ
ンピックの経済言語学 グーグル検索と言
語景觀 " 日本語教育 165 pp.3-17

井上史雄 2017.2.10 言語変
化のS字カーブ・過去の方言の痕跡 日本
語学 36-2 pp.26-35

井上史雄 2017.3.31 福建語
境界意識の連続体 方言区画と方言イメー
ジ 言語政策 13 pp.119-145

井上史雄 2017.3.31 日本語
ハワイ方言の特徴 東アジア日本語
教育・日本文化研究 20 pp.1-20

井上史雄 2017.3.31 「ら抜
きことば」20年間の経年変化 明海日
本語 22 pp.1-13

〔学会発表〕(計 0件)
省略

〔図書〕(計 2件)

井上史雄 2013.9.10 『こと
ばの散歩道』 明治書院 225ps.

井上史雄 2013.11.20 『魅せ
る方言 地域語の底力』 三省堂 225ps.

〔産業財産権〕
出願状況（計 0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

<http://www.innowayf.net/>

6. 研究組織

(1)研究代表者
井上 史雄 (INOUE, Fumio)
東京外国語大学・外国語学部・名誉教授
研究者番号：40011332

(2)研究分担者
岸江 信介 (KISHIE, Shinsuke)
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部・教授
研究者番号：90271460

木村 泰知 (KIMURA, Yasutomo)
小樽商科大学・商学部・准教授
研究者番号：50400073

高丸 圭一 (TAKAMARU, Keiichi)
宇都宮共和大学・都市経済学部・准教授
研究者番号：60383121

田中宣広 (TANAKA, Nobuhiro)
岩手県立大学・宮古短期大学部・准教授
研究者番号：60289725

半沢康 (HANZAWA, Yasushi)
福島大学・人間発達文化学類・教授
研究者番号：10254822

山下暁美 (YAMASHITA, Akemi)
特定非営利活動法人 社会理論・動態研究所 研究部)
研究者番号：10245029

ダニエル ロング (LONG, Daniel)
首都大学東京・人文科学研究科大学院・教授
研究者番号：00247884

(3)連携研究者

なし
()